



即時リリース用

2022年1月21日

メディア連絡先：キャリン・ウィック(Caryn Wick)

wick@khlaw.com

(202) 434-4318

Keller and Heckman 法律事務所が日本関係担当アドバイザーを起用しサービス拡大

ワシントンDC-国際法律事務所である [Keller and Heckman LLP](#) は、日本のクライアント向けサービスを強化するため、日本関係担当アドバイザーとして [難波多加志 \(TK\)](#) 氏を採用しました。

難波氏は、主に日本の産業界が関心のある各国の法令および規制遵守に関する課題について、Keller and Heckman の弁護士がクライアントに助言をする際、これを支援する役割を担います。また、法令順守に関する複雑な問題に対処する為、政府関係者や関連する事業者団体、クライアント間の橋渡し役としても活動します。

同氏は、18年以上にわたって高分子および添加剤に関連する企業に勤務し、日本、欧州、ラテンアメリカ、米国の市場での活動を通して、地域毎に異なるビジネス慣習をよく理解しており、これを生かしてクライアントをサポートしていきます。

Keller and Heckman の食品医薬品グループのパートナー弁護士であるミッツィ・クラーク(Mitzi Clark)氏は、難波氏について：

「10年前に初めて彼に会いましたが、食品接触材料とその業界に関する知識、また日本の厚生労働省、米国食品医薬品局、米国環境保護庁、欧州化学機関 (ECHA) およびメルコスールなど規制当局に関する幅広い知識を持っていることに感心しました。専門家として、常に、業界が直面している問題を広く、深く理解しようとする彼のような人物と仕事ができることは、喜ばしいことです。彼が Keller and Heckman のチームの一員になったことを嬉しく思います。クライアントの皆様に紹介できることを楽しみにしています。」

Keller and Heckman の経営委員会の委員長であるリチャード・マン(Richard Mann)氏は、同氏のアドバイザーとしての立場と、技術面での知識や経験について、次のように語りました。：

「日本のクライアントの皆様により高い水準のサービスをご提供することは、当弁護士事務所の長年の目標でした。しかし、彼のようなスキルセットを持つ人材を見つけることはとても困難でした。彼が工業化学と高分子科学の分野で専門教育を受けていることは、Keller and Heckman の規範である『法と科学を通じたビジネスへの奉仕』を具現化する良いモデルとなることでしょう。彼ほど、今回のポジションに打って付けの人物はいないと思います。」

難波氏は、Keller and Heckman の [食品包装業界](#) および [食品業界](#) への長年変わらぬ献身的なサービスに敬意を表し、今回の事務所加入を即決した理由を次のように述べました。：

「私は18年間、食品包装に携わってきましたが、その半分以上の時間、Keller and Heckman の弁護士のみなさんと共に仕事する機会に恵まれました。彼らは、私が依頼したすべてのプロジェクトにおいて、事務所内の科学専門家チームと共に、常に期待通りかそれ以上の仕事で応えてくれ、戦略的な解決策も提示してくれました。今後、私の視点や意見が、実績豊富で活力に満ちたチームのお役に立てば光栄です。」

日本でのビジネス経験も含めた難波氏の経歴は、国際法律事務所としての Keller and Heckman からクライアントに対し、これまで以上に充実したサービスの提供を可能にします。

学歴：ジョージア工科大学大学院 修士修了（高分子専攻）、神戸大学 学士号取得（工学部工業化学科）

###

Keller and Heckman について

[Keller and Heckman](#) は国際的に有名な法律事務所であり、規制法、公共政策、訴訟の分野で幅広い業務を行っています。当事務所は世界各地に拠点を持ち、食品、食品添加物、プラスチック、農薬、工業用および精密化学品、消費材、医薬品、医療機器、輸送、電気通信など、さまざまな業界のグローバル企業および事業者団体の代理人を務めています。当事務所は、所属する科学者スタッフと弁護士とが緊密に連携して課題にアプローチする手法で、技術的に複雑な問題の解決に取り組んできたパイオニアです。